
人の色

The★Gear

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人の色

【Nコード】

N0548I

【作者名】

The★Gear

【あらすじ】

高校一年生の主人公。二年前に両親をなくし現在一人。バイトをしながら学校に通う。忙しくも楽しい毎日。彼の周りには友人が囲んでいたしかし、彼は思った「俺このままじゃあずっと春がこないじゃないか」と。主人公を取り捲る女の子のほのぼの学園らぶこめです

第一章 始まりの季節!!

第一章 「始まりの季節!!」

春。俺が好きな季節のひとつ。

春。それは始まりの季節

春。それは恋の予感!?

「うおおおおお・・・・・・・・・・」

俺はそういつて走った。

走りながら携帯を取り出し時刻を確認・・・・・・・・8時25分。

「あ・・・・・・・・アト五分!?!?!」

俺が走ってる理由・・・・・・・・想像つくだろう?

「チコクジャアアアア」

そう叫ばずに入られなかった。まさか入学式に寝坊するなんて・・・

誰だって現実逃避したくなるさ・・・・・・・・・・はは。

俺は高山広志。15歳。今日からピカピカの高校一年生。

趣味は音楽鑑賞。とくに洋楽が好きだ。あと歴史を知ることかな・

・

自慢じゃないが結構交友が広い……と思ってる。

普段は遅刻する性格じゃない、たまたまだ。だんじて

毎日遅刻するようなやつじゃない。頼む。信じてくれ。

「おい、広志。まにあわねえ。どーすんだべよ」

となにから、しゃべりかけているこの人物は石丸舜。同じく15歳。

趣味は日本地図の観賞と非常に地味な奴……は学校での姿。

仲のいい友人の前だと、はっちゃける（笑

「うるせえ。しゃべってる暇があったら走れ!!」

「なんだよ。つつこんでくれよ。つれねえな……。」

“な……なにを言っているこいつは……”

大体、お前が時計壊すからいけないだろ”

と、俺は心の中で悪態をつきながら黙って走る。

そう、俺とこいつは一緒に住んでいる。いや、だからって

ああ〜という感じはまったくくないよ。そんな気はまったくくないよ

男に興味ないよ。俺。アレだよアレ。家庭の事情だよ。

それと昔からの付き合いで親も親友同士だっただけで……………

え？親公認？

“んなわけあるかいなああああ！！！！！”

「何ぶつぶつ言ってんだ？……あ。そうか……お前頭いつちま
ったんだっけ」

「てめ……ぶっ飛ばすぞ。」

おれは、石丸に殺気を当てた。

ふう〜、相変わらずの毒舌家だ。いやになっちゃうわ。

こいつのきつ〜い言葉を30分も聴いてたら

まじで頭いっちまうかも……………

こいつと昔から喧嘩をよくしたが

口げんかでは勝ったためしがない

それぐらいこいつの口は強いのだ……

「まあな」……………と丸が。

「えっ!! お…………お前なに俺の回想にはいつてきてんだよ
つか、そのスキルマジほしいんだけど!!!!」

普通入れるか? 漫画でもめったに見ないぞ。この離れ業は!

「クソっ! 昨日ゲームしまくってすごく……………ね……………むい」

「だめだ。広志い! 寝るんじゃない。ゴールはすぐそこだああ!」

何言ってるんだこいつは、意味分からん

「俺は広志の存在自体意味分からんね」

「なっ!! っだから俺の回想に入ってくんじゃね〜!」

そんなやり取りをしながら、いつの間に学校のそばに来ていた。

校門までアト10M！

しかし、その前に立ちはだかる体育教師！

「こらあゝ遅刻だ！そのふたりとま『ゴフうう』」

体育教師がその言葉を言い切る前に

俺は右ストレート。丸はハイキックが体育教師に炸裂。

ああゝ、コレは呼び出しモンだな。

それでおれは

「言わせねえゝよ」

と、どこかの芸人がやっていたせりふを吐いた瞬間

「ゴホオオオ」

前から鉄拳がハイスピードで出てきて俺の顔面にダイレクトアタック

……先生……俺……あなたの気持ち……分かった
気がします……。

「コラ！広志、丸！！遅刻しながら何先生を戦闘不能にしてんのよ！

悪いのはあんたじゃない!」

目の前にいる少女、そう俺の天敵の小笹 杏子。マルの彼女だ。(くやしい

マルほどではないが、結構長い付き合い。性格は少々男勝り。元氣すぎる女だ。

こいつの鉄拳は男のグーパンチ3発分に匹敵する。正直コレは怖い。マルから聞いた話だと、女の子らしい一面もあるのだが。

俺はいまだにそれを創造できないで要る。

「フウ。お前のダイレクトパンチは効いたぜ。だがダイレクトさでは俺が上だな。」

「な!! なに!! あたしのダイレクトがアタタに劣るだって!!」

「なんせ俺はカルピス原液をダイレクトで飲む男だからな」

「体に悪いから、やめろ」・・・と突っ込むマル。

「かき氷なんてバラ氷で食うモンな。削るなんて甘っちょろいことはしないぜ。」

「マル、こいつ頭いっちゃったから、殺るね& a m p; # 9 8 2 5; ;
てへ& a m p; # 9 8 2 5; ; 「ドカン!!!!」

「広志い〜〜〜〜!!」

「ま・・・まるう・・・。俺の最後の言葉を聞いてくれ・・・」

「ああ」

「なんで連邦軍はガンタンクなんかつくったんだろうな」

「最後の言葉がそんなんでええのかあああああ!!」

ナイス突っ込み、マル

そして、俺の一日の始まりが・・・

第一章 始まりの季節!! (後書き)

ども。MAXメンです。今回初投稿の若輩者ですので誤字脱字は許してください。

文章力もないと思いますが、さいごまでよんでくれたらうれしいです y。

これからがんばりますので、みまもってくださいまし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0548i/>

人の色

2010年10月11日16時52分発行